

民主島根

2023年
1.29
第1420号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

強く大きな党づくり、県議選勝利へ 島根から「岸田政権ノー」の声あげよう

党東部地区 党と後援会決起集会に120人



党の躍進・前進へ決意を固め合う参加者（松江市）

日本共産党東部地区委員会は22日、県議選（3月31日告示・4月9日投票）勝利をめざし、松江市で「新春決起集会」を開きました。120人が参加し、松江、出雲両選挙区の2議席必勝へ決意を固めました。

尾村としなり県議は国保料や介護保険料の滞納者が増えている実態を報告し、「大軍拡、くらし破壊の岸田政権いなるの県政では県民の命が奪われてしまう。国いなり県政とキツパリ対決し、命とくらしを守る議席として引き続き働かせてほしい」と訴えました。

業者、医療後援会、新入党員ら6人が県議選必勝と強く大きな党をつくる決意を表明。市民団体「ワニの会」の遠藤修一代表は「原発ゼロを主張



（右から）舟木、尾村、橘の各氏と岩田剛東部地区委員長（松江市）

しているのは尾村県議だけ。1万枚のリーフレットを撒きまわす」と訴えました。

岩田剛地区委員長が「強く大きな党をつくりながら勝利を勝ち取る」と呼びかけ。集いや「折り入って作戦」などあらゆる活動で入党の働きかけや赤旗購読をすすめるとともに、攻勢的な宣伝と対話・支持拡大を引き上げる活動を提起。上代善雄県委員長の団結ガンバローで決意を固めました。大平喜信元衆院議員の動画メッセージが紹介されました。

大軍拡・大増税、原発再稼働ノー

中国5県一斉宣伝 尾村県議、松江市議団ら訴え

今春の統一地方選挙勝利へ党の風を吹かそうと、中国5県の日本共産党は20日、地方議員・予定候補を先頭に各地でいっせいの宣伝に取り組みました。

松江市では、尾村としなり県議、舟木健治、橘ふみ両市議らが商店街前で宣伝し、「原発推進、大軍拡・大増税、くらしと憲法破壊す岸田政権ノーの

尾村・大国県議のリーフレット完成

政治信条や活動・実績、政策など紹介

日本共産党の尾村としなり、大国陽介両県議の「県政・政策リーフレット」がこのほど完成しました。（写真）

いま県民の中には「島根原発が攻撃対象になるのではないか」「給料は上がらず、出費ばかり増え、貯金なんてとても無理」など、不安と苦しみが広がっています。

両県議のリーフレット



「天知る、地知る、己知る」
「この言葉を知ったのは、小学5年時。クラスに問題が起った際の一場面だった。細かい文脈は忘れてしまいが、くつきりと黒板に浮かび上がる白墨の文字、それを書き上げる担任の後ろ姿が今でも目に浮かぶ▼鮮明に記憶する理由は一つ。それはこの言葉に当時の私が「畏れ」を抱いたからだ。その畏れは長く私の心を捉え、「悪事は誰にも知られていない」と思っても、決してそうではない。天地に知られ、何より自分自身がそれを知っている」という解釈、すなわち自己への「戒め」以外のそれを許さなかった。しかしこの数年で、異なる見解も得た。ある人物の生き方を知ったことによる▼戦前、女性の政治参加が許されず侵略戦争に日本が突き進んだ時代に、反戦平和、主権在民、労働者の処遇改善、ジェンダー平等を求め、社会変革を訴えた先駆的女性活動家・伊藤千代子。藤田廣登氏の著書『時代の証言者伊藤千代子』からは、当時の千代子の理論水準、革命運動にかける決意の高さを知ることができる。同時に、筆舌に尽くしがたい弾圧にも屈せず、毅然と志を貫いた理由も読み取れる▼その不屈性を支えたのは未来社会への確信と希望。そして自己の生き方への肯定と誇り。千代子を知ることで、冒頭の言葉の解釈は「誰に知られずとも、自らに恥じることなき生き方をする」ことへの励ましとなった▼先の藤田氏の著書を原作とした映画『わが青春つぎるとも』の自主上映が2月11日、松江市市民活動センターで行われる（10時半、14時の二回）。ぜひ、多くの方に足をお運びいただきたい。（江

日本共産党演説会

3月5日（日） 10:00～ 松江テルサホール（松江市）



私たちもお話します

14:00～ 大社文化プレイスうらら館 だんだんホール（出雲市）

弁士

参院議員（弁護士）

山添 拓



【松江会場】
県議会議員
尾村としなり



【出雲会場】
県議会議員
大国陽介